

令和6年度

食品健康影響評価技術研究の二次公募における
事前評価結果について

令和6年10月
研究・調査企画会議
事前・中間評価部会

令和6年度食品健康影響評価技術研究の二次公募における事前評価結果

令和6年8月29日から令和6年9月20日まで公募を行い、11課題の応募があった。研究・調査企画会議事前・中間評価部会において、応募内容を審査した結果、下表のとおり、3課題を採択課題として選定し、評価所見等を取りまとめた。

受付番号	6	研究期間	令和6～7年度	
主任研究者	福家 辰樹	所属機関	国立成育医療研究センター	
課題名	我が国の特定原材料に対する網羅的なアレルギー症状誘発確率の推計とばく露評価に基づいた定量的リスク評価に関する研究			
研究目的概要	<p>本研究は、我が国で急増するナッツ類アレルギーを含め、食物アレルギーを有する者における特定原材料をはじめとしたアレルゲンを含む食品に対するアレルギー症状誘発確率について、国際的に発展しつつあるリスク評価手法によって推計し、食品表示等の検証を実施するにあたり必要な科学的知見を得ることを目的とする。</p> <p>具体的には、複数のアレルギー専門施設で実施された特定原材料（等）を対象とする食物経口負荷試験データを収集・整理し、ベイズ統計学に基づく複数モデルの精緻化により推定する。さらには、中食・外食産業をも想定したばく露評価を実施し、消費者が安全に食品に摂取するための基礎資料を提供することを目標とする。</p>			
評価所見	<p>(総合コメント)</p> <p>アレルゲン物質のリスク評価に必要なデータを提供するための研究であり、ファクトシート等へも活用が期待される、必要性の高い研究と思われる。</p> <p>(その他)</p> <p>有用な知見が得られるよう、しっかりとした定量的解析を期待する。</p>			
評価点	合計点	研究の妥当性	研究目標の達成度	研究成果の有用性
	16.3/20点	4.4/5点	4.1/5点	7.8/10点

受付番号	5	研究期間	令和6～7年度	
主任研究者	田中 周平	所属機関	京都大学	
課題名	有機フッ素化合物類 PFASs の食事を通じたばく露実態およびばく露経路に関する研究			
研究目的 概要	<p>本研究では、遺伝子損傷性や神経毒性への関与が報告されている有機フッ素化合物類（以下 PFASs）を対象に、食品の製造・加工過程における非意図的生成を考慮した含有量を明らかにし、食品を通じたばく露実態を食習慣も踏まえて把握することを主目的とする。前駆体、中間生成体を含めた対象物質の分析を行うことで、食事を通じたヒトへのばく露量を総量として把握し、MOE の把握やリスク評価、対応策の検討に資するための研究を行う。</p>			
評価所見	<p>（総合コメント） 食品を通じたそれぞれの品目ごとの PFAS のばく露実態や経路を明らかにする研究は有用である。</p> <p>（その他） 個々の PFASs の単位重量当たりのリスクを考慮することで、優先的に注目すべき物質を定めておく必要性について考慮が必要でないか。 分析対象食品群のサンプリング方法については、実態を反映したデータが得られるよう留意が必要である。 国際的に標準的とされる PFAS 分析法はないため、事前に信頼できる分析法を確認のうえ、研究を進めていただきたい。</p>			
評価点	合計点	研究の妥当性	研究目標の達成度	研究成果の有用性
	14.8/20 点	4.3/5 点	3.5/5 点	7.0/10 点

受付番号	2	研究期間	令和6～7年度	
主任研究者	堀口 兵剛	所属機関	北里大学	
課題名	カドミウム土壌汚染地域住民の調査によるカドミウムの骨への影響と湛水管理の米中無機ヒ素濃度への影響についての検討			
研究目的概要	<p>我が国では腎尿細管機能障害についての疫学調査によりカドミウム (Cd) の耐容週間摂取量が設定されている。しかし、海外ではCdの骨への影響についての調査が多く行われてきた一方で、我が国での調査は乏しい。本研究は、上記の耐容週間摂取量の設定根拠となった秋田県での調査をさらに継続し、骨への影響についてのデータを蓄積して解析する。また、米中Cd濃度の低減対策である湛水管理により米中無機ヒ素濃度が高くなる可能性が実験的に指摘されている。そこで、秋田県の調査で得られた米と尿の検体について化学形態別ヒ素濃度を測定し、湛水管理による精米中無機ヒ素への影響と無機ヒ素曝露量を明らかにする。</p>			
評価所見	<p>(総合コメント) カドミウムの骨への影響を解析することは食品健康影響評価技術研究を通じたリスク評価に資すると考える。</p> <p>(その他) ヒ素と併せて検討する理由と、ヒ素を含めた解析方法を明記してほしい。</p>			
評価点	合計点	研究の妥当性	研究目標の達成度	研究成果の有用性
	14.6/20点	4.1/5点	3.5/5点	7.0/10点

(参考)

研究・調査企画会議 事前・中間評価部会委員

(◎：座長)

磯 博康	国立研究開発法人国立国際医療研究センター 国際医療協力局グローバルヘルス政策研究センター センター長
小澤 正吾	元・岩手医科大学教授
鬼武 一夫	日本生活協同組合連合会品質保証本部 総合品質保証担当
宮崎 茂	一般財団法人 生物科学安全研究所 参与
山本 茂貴	食品安全委員会 委員長
浅野 哲	食品安全委員会 委員長代理 第一順位
◎祖父江 友孝	食品安全委員会 委員長代理 第二順位
頭金 正博	食品安全委員会 委員長代理 第三順位

評価項目及び評価基準： 事前評価

評価項目	評価基準
I 研究の必要性	研究領域の趣旨に沿った研究内容となっているか評価する。 1 食品健康影響評価に関する研究であること 2 研究内容の科学的、技術的意義について 3 関連する研究の実施状況を踏まえ、独創性、新規性等について
II 研究の妥当性	以下の点に関する研究体制及び研究計画、研究遂行の妥当性について評価する。 1 研究の体制（主任研究者、分担研究者の役割分担） 2 主任研究者等の既往の成果、能力 3 研究の計画、方法 4 研究の実施期間における遂行の可能性 5 費用対効果
III 期待される研究成果の有用性	期待される研究成果の活用性とその有用性について評価する。 1 既往の成果、研究手法等を勘案し、研究目標の実施期間内における達成可能性について 2 食品健康影響評価への貢献等の可能性について 3 研究の成果の発展可能性について